教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 心理学科　　資格： 講師　　氏名： 三好　智子

研究分野	研究内容のキーワード
認知心理学，実験心理学	認知情報処理，協調運動，　運動制御モデル
学位	最終学歴
修士（教育学）	九州大学大学院システム情報科学府情報学専攻　単位取得退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.学習管理ツールの活用	2021年9月～2023年3月	公認心理師の資格取得を希望する学部生や公認心理師資格について詳しく知りたい学部生を対象にClassroomを利用しガイダンスや大学院入試やカリキュラムなどに関連する情報の一本化を目指した．また，事前にGoogleformsで学生の要望を調査し，それをもとにガイダンスや実施することで，公認心理士師資格取得に向けた学びの過程やキャリアについて考えるきっかけを提供した．
2.ICTツールと教育管理ツールの活用	2021年9月～2023年1月	大学心理・社会福祉学科の知覚・認知心理学（知覚）の授業では，遠隔授業であったため授業に関連する知覚現象の体験や実験を各自で実施できるように，授業資料中や課題にリンクを貼り学んだことをすぐ体験できるように工夫した．またGoogleformsを用いて授業の理解度の確認を行い，毎回の授業冒頭には受講生全員の実験結果や理解度のフィードバックを実施した．
3.教育管理ツールの活用と双方向型授業の実施	2020年9月～2022年1月	大学心理・社会福祉学科の心理学実験Ⅰ・Ⅱの授業では，対面・遠隔の併用授業を展開することで学生の授業参加を促し，またチャット機能を用いて質疑応答や個々人にあった指導を行った．特に，結果の解釈の指導やつまずき箇所を確認，段落構成法のスキル向上を目指した．
4.マルチメディア機器と学習管理ツールの活用	2018年4月～2019年8月	短大心理・人間関係学科のオフィスワークの情報処理の授業にて，MicrosoftOffice2016の利用方法について，実際にコンピュータを使用した演習を行った。特に，案内状等の文書や関数を用いた売上集計表などの作成指導を行った。また，classroomを用い各回の授業資料の配布をした。さらに，課題および授業中に作成した成果物をclassroomに提出させることで，個別添削と振り返りを実施した。これにより，予習復習をいつでもできる環境を提供し，WordやExcelの作成スキルの向上を目指した。
5.レポート添削指導	2016年4月～現在	産業能率大学通信教育課程において，心理学レポートの添削を行うなかで，心理学の専門的知識のない学生に対しては，ポイントとなる点に補足コメントを入れ理解を深めれるように工夫している．また，内容だけではなくレポートの書き方についても添削指導を行っている．
2 作成した教科書、教材		
1.公認心理師実習時間管理ツール	2018年11月～現在	公認心理師の実習に関わる活動時間を記録し，リアルタイムで実習の総時間を算出できるツール（Ver1.1）を開発した。学生自身が入力できる個別管理用と学生の進捗状況を教員が把握できる教員管理用を作成した。合わせて，時間管理ツールの手順書とツール管理マニュアルを作成した。 現在は，ツールの保守やマニュアルの整備を行っている。
2.心理見学実習の手引き	2018年11月	学部における公認心理師養成に先駆けて行われる平成30年度特別学期「心理見学実習」で使用される「心理見学実習の手引き」を作成および文章校正を行った。合わせて，実習関連書類（事前学習記録，実習記録，

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
3.公認心理師実習「学外実習の手引き」	2017年～2019年3月	実習レポート）の作成を行った。 大学院における公認心理師養成に先駆けて行われた平成30年度4月版「実習の手引き」の作成に携わった。その後，平成30年度9月版と平成31年度4月版の改訂作業に携わった。合わせて，学外実習に必要な関連書類一式の作成および改訂を行った。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.九州大学大学院システム情報科学府　リサーチ・アシスタント	2010年7月～2011年3月	九州大学大学院では，システム情報科学研究院認知科学研究室にてリサーチ・アシスタントとして，データの収集や整理等の研究補助を行うだけでなく，研究室に所属する学部生および大学院生の研究補助や研究進捗発表等のミーティングの運営を行った.
4 その他		
1.配慮を要する学生の学生生活相談業務	2016年4月～2016年8月	武庫川女子大学心理・社会福祉学科，心理・人間関係学科に属する配慮を必要とする学生に対して，教務助手として毎月、個別に面談を行い，体調状態や履修に関する相談を実施した．必要に応じて情報提供や各部署との調整を行った.

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.中学校教諭専修免許状（理科） 2.小学校教諭専修免許状	2010年3月1日 2010年3月1日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.自由が丘産能短期大学通信教育課程　兼任教員	2020年4月1日～現在	「家族心理学」，「健康心理学」の2科目について，通信教育で学ぶ学生の課題レポート添削指導を行っている。
2.ひょうご理系女子未来塾　パネリスト	2019年3月15日	ひょうご理系女子未来塾事業の一環として，高校1・2年生を対象としたシンポジウムに登壇した。パネルディスカッションでは、文理選択とキャリアデザインについて述べ、文理融合の立場から「心理学」の学問についてディスカッションを行った。
3.産業能率大学通信教育課程　兼任教員	2016年～現在	2016年から「チームワークの心理学」，「家族心理学」，「健康心理学」の３科目について，2019年から「スポーツに学ぶチームマネジメント」の1科目を加えて，通信教育で学ぶ学生の課題レポート添削指導を行っている。
4.福岡県糸島市立深江小学校　臨時講師	2015年2月～2015年3月	学習支援教員（算数・理科専科）として，5年生クラスの理数授業の補助を行った.
5.福岡県糸島市立深江小学校　臨時講師	2013年5月2015年2月	1年生クラスにて，音楽専科と図工専科として1年間指導した．また，Team Teachingの一員としてその他の授業補助や特別支援学級クラスの児童の補助を行った.
4 その他		
1.模擬授業	2024年8月10日	2024オープンキャンパスの心理学科での模擬授業にて、デザインと心理学をテーマにし、身の回りにあるデザインについて主に人の知覚や感性がどう関わっているのか実例を挙げながら講義を行なった。
2.日経STEAMシンポジウム体験コーナー担当	2024年7月30日	体験コーナーにて，鏡映描写課題を用いた心理学実験を実施した．体験を通じてテクノロジーと心理学の関係について高校生に伝えた．併せて，鏡映描写課題の解説を記載した簡単なパンフレットを作成し配布した.
3.社会実践ワーキンググループメンバー	2024年6月21日～	社会実践実習を実施するにあたって、授業の制度設計や学内・学外プロジェクトの立案と運営の担当を担った。
4.高校訪問　模擬授業への参加	2023年7月5日	心理学と持続可能な社会について「心理学で”アイ”を考える」をテーマに，人の認知と行動の仕組みとそ

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		の理解や最先端の情報処理技術が欠かせない理由について心理学的な観点から講義した．
5.心理学科開設準備ワーキンググループメンバー	2022年9月～2023年3月	新学科体制に向けたタスクやマネジメント体制について検討し実行した。主に、学科事務業務体制のDX環境の構築を目指し、業務内容の整理と業務ガイドのマニュアル化を行った。
6.日経STEAMシンポジウム体験コーナー担当	2022年7月28日	体験コーナーにて，鏡映描写課題を用いた心理学実験とVR体験を実施した．体験を通じてテクノロジーと心理学の融合とその先の可能性について高校生に伝えた．併せて，鏡映描写課題の解説や「VR×心理学」についての読み物を記載した簡単なパンフレットを作成し配布した．
7.高校訪問　探求テーマ別ガイダンス・分野別　　ガイダンスへの参加	2022年7月13日	探求テーマ別ガイダンスでは，心理学の研究領域と心理学的アプローチの手法について講義した後，生徒各自が設定した探求テーマに対するアプローチ方法について個別にアドバイスを行った．分野別ガイダンスでは，「心理学と自分の未来」をテーマに，研究内容や心理学科の説明，心理学とキャリアについて講義した．
8.新学部構想・新学科に向けてワーキンググループメンバー	2021年4月～2022年9月	新学部開設に向けて、学科共通科目の提案や調整，書類作成のサポートに携わった。併せて、新学科に向けて新学科のカリキュラムマップや履修モデル、タスクの洗い出しだけでなく、新学科のマネジメント体制について検討を行った。
9.鳴松会　校内常任幹事	2020年6月～2022年5月	鳴松会常任幹事会や鳴松会の日への出席や武庫川学院鳴松会奨学生選考委員会で奨学生の選考業務を行った。
10.武庫川女子大学附属幼稚園　運動指導者	2020年4月～現在	武庫川女子大学附属幼稚園の年長と年中が実施している年15回程度の運動遊びの指導者として運動プログラムの開発し、運動指導を行っている。2021年には、避難訓練時の子どもの体力調査を園と協力して行い，最低限必要な体力をつける運動プログラム開発を目指している。
11.学科情報管理担当	2019年4月～2023年3月	学科の情報管理として学科所有PCの保守やデータバックアップ体制の検討と構築，学科サーバの保守と移行に伴う問題点の洗い出し，共有ドライブの構築を行った．令和2年度では，学科PCの利用規則の再検討と新しいガイドラインの作成を行った．
12.公認心理師対応プロジェクト　実習・SV合同チームメンバー	2018年7月～2019年3月	大学院において，公認心理師養成に関わる学内実習の運用と教育評価の検討を行った。主に，学習記録や評価法の作成の役割を担った。また，実習時間管理ツールと記録媒体の照合作業を行った。
13.鳴松会　校内幹事	2018年4月～2019年5月	文化祭の鳴松会展示会場において受付・展示品の配置と確認業務を行った。
14.公認心理師対応プロジェクト　運営タスクフォースメンバー	2018年4月～2019年3月	実習委員会における議題のとりまとめおよび原案作成，緊急対応を行った。主に，公認心理師対応プロジェクト組織図や緊急・クレーム対応手順，学外実習配属手続き，フィールドインストラクター招集から謝金までの手続きなどの必要とされる資料作成や原案作成の役割を担った。
15.公認心理師対応プロジェクト　在学生対応チームメンバー	2018年4月～2019年3月	大学院および大学，短大において，公認心理師養成に関わる決定事項の伝達や学生の窓口対応を行った。主に，大学院生の窓口担当を行っており，入学前通知文書や編入生の公認心理師養成手続きに関する役割を担った。
16.公認心理師対応プロジェクト　事務チームリーダー	2018年4月～2019年3月	実習委員会の会議運営および各チームから上がってくる事案や文書のとりまとめ，学生に対して通知を行った。主に，チーム内のスケジュールとタスク管理を行い，作業分配と進捗状況の把握の役割を担った。ま

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		た，公認心理師対応プロジェクト「厚労省・文科省」「実習」「予算」「手引き」「広報」とのチームと連携し，各チームへの依頼および調整を行った。
17.公認心理師対応プロジェクト　制度設計チームメンバー	2018年4月～2019年3月	大学院および学部において，公認心理師養成に関わる学外および学内実習の運用構築や実習手続きや文書管理手続きの整備を行った。主に，制度設計に関わるタスクの洗い出しや原案作成，文書作成の役割を担った。
18.公認心理師対応支援プロジェクト　メンバー	2018年3月～2018年4月	2017年度公認心理師養成に関する実習委員会が中心となって行う公認心理師対応の支援を行った。 主に，公認心理師養成に関する課題の洗う出しやタスク整理，チーム編成等の基盤を構築し公認心理師対応プロジェクトの立ち上げに携わった。
19.公認心理師対応カリキュラムワーキンググループメンバー	2017年7月～2017年12月	公認心理師養成カリキュラムの検討を行い，心理・社会福祉学科および大学院臨床心理学専攻のカリキュラムを編成の補助を行った。
20.ティーチング・アシスタント(TA)統括	2017年4月～2018年3月	心理・社会福祉学科のTAを担当する臨床心理学専攻の院生の意見集約やTA会議の取りまとめなど，TAの業務のマネジメントを行っている。
21.武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科　教務助手リーダー	2017年4月～2018年3月	心理・社会福祉学科，心理・人間関係学科，文学研究科臨床心理学専攻において，公認心理師養成のカリキュラム整備等の教務事務を担当している。学科の教務助手7名のチームリーダーとして，学科全体の日常業務の進捗状況確認，問題の取りまとめを行い,学科長,幹事教授の指示を得る役割を担っている。平成29年度オープンキャンパスにおいては，心理領域のゼミ紹介や授業に関わるパネル展示を提案・作成し，学科の教育・研究活動の発信を行った。
22.武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科　教務助手	2015年4月～2017年3月	心理・社会福祉学科，心理・人間関係学科，文学研究科臨床心理学専攻において，心理領域の教務や予算事務を担当した。また，学科専用の学習支援室において，専門書の充実や学科発信用の案内掲示等を作成し学生の学習環境を整えた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.公認心理師の基本を学ぶテキスト７　知覚・認知心理学	共	2021年5月30日	ミネルヴァ書房	萱村俊哉・郷式徹・三好智子・森数馬・石倉健二・綾部早穂・小川緑・宮原道子・杉森絵里子・中村紘子・眞嶋良全・坂田陽子・武田俊信 担当：第1章「視覚―私たちは何をどう見ているのか―」pp.15-34. 本書は、公認心理師カリキュラム対応のテキストとして公認心理師を目指す学部生や心理職を対象に、知覚心理学や認知心理学の領域について日常生活の経験や事例のエピソードと関連させることや公認心理師の実践との関係ついて意識させることを目的としたテキストである。担当章では、視覚情報処理の基本的なメカニズムやその障害について述べた。
2 学位論文				
1.Advance visual cues の利用が打球の方向予測に及ぼす影響 ―熟練者と非熟練者との比較実験による検討―	単	2010年3月	鳴門教育大学大学院学校教育研究科，修士学位論文	修士学位論文，主査 山崎　勝之教授 捕球場面において，内野手は打球方向の予測をしているの，もし予測しているのならどの時点で何を手がかりにしているのかを検討した．また，実験終了後に何に注目して課題を行っていたのかを質問紙で回答させた結果，熟練者は一連の流れから打球方向を判断していることが明らかとなった．また，熟練者は非熟練者よりも反応時間が短いということが明らかとり，熟練者は非熟練者よりも早い時点でボールの左右方向を予測していることが示唆された．
3 学術論文				
1.目と手の協応課題における幼児の協調運	共	2024年3月12日	武庫川女子大学紀要，71，p. 27-35	要求された描画パフォーマンスの特徴を捉えるために，自己運動制御課題と指標追跡課題とを比較し課題の正確さやタイミングについ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
動と運動戦略の特徴（査読付き）				て検討した結果，運動時の時間的操作は幼児期では十分に発達していないことや課題によって運動戦略が異なるが示唆された
2.スポーツ選手の予測の数理的解析（査読付き）	共	2013年8月	心理学評論，56，pp.112-125.	三好智子，森周司 スポーツ熟練者の知覚と行動の制御に関して，ボール運動の視覚情報の解析とボールの捕球位置や時間の推定，および対戦相手の身体動作の動作解析と対戦相手のその後の動作の予測について数理的アプローチによる研究を報告した．
3.スポーツ選手の知覚	共	2013年1月	VISION，25，pp.20-25.	森周司，三好智子 スポーツ熟練者が有する専門的知覚の働きを発揮させることができるのは，競技場面あるいはそれに類似した実験場面，すなわち生態学的妥当場性が高い状況であることが明らかになっている．そのスポーツ熟練者の専門的知覚に関する研究動向を自身の研究も含めながら解説した．（解説論文）
4.事前視覚情報の利用が打球方向予測に及ぼす影響（査読付き）	共	2012年8月	心理学研究，83，pp.202-210.	三好智子，森周司，廣瀬信之 学位論文のもととなった内容を一部再検討し学術論文として投稿．遊撃手の打球方向の予測について反応時間課題と時間遮蔽課題を用いて検討した．その結果，打撃映像場面において熟練者は非熟練者よりも有意に反応が早かった．また，打者の踏み込み終了時点において熟練者の正答率は，チャンスレベルよりも有意に高かった．以上より，熟練者は非熟練者よりも打球方向予測の手がかりとなる情報を抽出し利用する能力が優れていることが示唆された．
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.口頭発表「幼児期における運動の不器用さに関する実態調査」	共	2021年9月7日	日本幼小児健康教育学会第40回大会 p.18-19（岡山大学）	本谷萌々花，長岡雅美，三好智子 幼児を対象に発達性協調運動障害を評価する質問紙法のDCDQ-Jと実際の運動を評価するコオーディネーション能力テストとの関連から幼児期における運動発達の特徴を検討し，幼児期における運動の不器用さの現状を報告した．そして，DCDQ-J得点がSD値よりも低いスコアの4歳児では，上肢と下肢を同時に動かす協調運動が特に苦手な傾向を示すことを報告した．
2.口頭発表「幼児期の運動指導における教示方法の違いが運動パフォーマンスに及ぼす影響」	共	2021年9月4日	日本幼児体育学会第17回大会 講演要項・研究発表抄録集，p.39-40（大阪成城大学・大阪成城短期大学）	浅井えみ，長岡雅美，三好智子 幼児を対象に，学習者の目の前で行う示範とキャラクターの目印の提示の２つの視覚的教示方法を用いて，立幅跳びのパフォーマンス成績に効果があるかを検討した．そして，視覚的教示方法の有用性を明らかにすることはできなかったが，具体的な示範法やKRを与えることで視覚的教示の明確な効果が得られる可能性があることを報告した．
3.口頭発表「描画課題における適応動作の予備的研究」		2021年4月24日	第4回日本DCD学会学術集，p.35.（青山学院大学）	三好智子，長岡雅美 聴覚支援学校に在籍する児童を対象に，自己運動制御課題と指標追跡課題の円描画を実施した．そして，正確さを維持できる速度の運動計画は個人で異なることと，速度が制御された場合，指標速度を維持させたり少しずつズレを修正していく運動方略を行うことを報告した．
4.口頭発表「聴覚障害児におけるリズム能力とバランス能力の特性」		2021年4月24日	第4回日本DCD学会学術集，p.34.（青山学院大学）	長岡雅美，三好智子 聴覚支援学校の低学年児童を対象とし，センシング技術を用いてなわとび運動中のセンシングデータから児童の運動リズムや運動バランスを測定した．そして，今回の対象児からは，聴覚障害児と健聴児のリズム能力とバランス能力に差はないことを報告した．また，本対象児は，聴覚障害の代償を独自の運動計画や戦略によって運動動作を遂行しているのではないかと示した．
5.口頭発表「手と目の協応課題における協調運動評価の基礎的研究」	共	2021年3月7日	日本幼児体育学会第16回大会 講演要項・研究発表抄録集，p.67-68（仙台大学）	三好智子，長岡雅美 5歳児クラスの園児を対象に，要求された描画パフォーマンスの特徴を捉えるために，自己運動制御課題と指標追跡課題を実施し課題の正確さやタイミングについて検証した．そして，速く行う動作や遅く行う動作という運動時の時間的操作は幼児期では十分に発達していないことを報告した．
6.ポスター発表「幼児	共	2021年3月	日本発育発達学会	長岡雅美，三好智子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
期・児童期におけるコオーディネーション能力の発達特性」			第19回大会	年中・年長，1年生・2年生を対象に５つのコオーディネーション能力テストについて，幼児期から児童期における運動発達の特性について検討した．そして，学年の上昇に伴って運動の発達傾向が顕著であることが明らかにされた一方で，課題によって発達パターンに違いがあることを報告した．
7.口頭発表「幼児期におけるコオーディネーション能力評価に向けた基礎的研究（２）ーMokis-StudieテストとTraceCoder®評価との関連ー」	共	2019年9月14日	日本幼小児健康教育学会第38回大会 p.36-37（安田女子大学）	長岡雅美，*三好智子* 5歳児クラスの園児を対象とし，幼児期における運動発達の特徴を明らかにするためにコオーディネーション能力テストと目と手の協応課題との関連について検討した．そして，目と手の協応課題におけるコオーディネーション能力を時空間的に評価できることを報告した．
8.口頭発表「幼児期におけるコオーディネーション能力評価に向けた基礎的研究（１）ーTraceCoder®を用いた描画動作の特徴ー」	共	2019年9月14日	日本幼小児健康教育学会第38回大会 p.34-35（広島安田女子大学）	*三好智子*，長岡雅美 5歳児クラスの園児を対象とし，円描画課題において，速度と精度に考慮した課題遂行中の幼児の描画動作における協調運動の特徴を検討した．利き手では，最適な運動パターンが戦略的に形成されていくが，非利き手では，手先や上肢を操作する運動パターンが未形成で，特に最適な速度調整が困難であることを報告した．
9.口頭発表「幼児期における微細運動の特徴」	単	2018年4月	第2回日本DCD学会学術集，p.20.（弘前大学）	*三好智子* 発達性協調運動障害の評価法であるDCDQ-Jのうち，書字・微細運動得点を3群に分け，群別による幼児（4歳児・5歳児）の円描画の特徴を検討した．そして，得点によって群分けした4歳児と5歳児それぞれの描画の正確性と回転数，筆圧の相関について報告した．
10.口頭発表「幼児期における協調運動の発達特性」	共	2018年4月	第2回日本DCD学会学術集会，p.21.（弘前大学）	長岡雅美，石川道子，*三好智子* 幼児を対象に発達性協調運動障害を評価する質問紙法のDCDQ-Jと実際の運動を評価するコオーディネーション能力テストとの関連から幼児期における運動発達の特徴を検討した．そして，コオーディネーション能力テストの課題別による発達段階の違いについて報告した．
11.ポスター発表 「円描画における微細運動の分析(1)」	共	2017年9月	日本心理学学会第81回大会論文集，pp.833.（久留米大学）	*三好智子*，松村憲一，小笠原一生，長岡雅美 微細運動の定量的な指標として，円描画の利用可能性を目的とし，幼児の円描画の特徴と保護者による評定である発達性協調運動障害質問紙のうち微細運動得点との関連を明らかにした．そして，タブレット端末を用いた円描画課題と質問紙の得点によって群分けした4歳児と5歳児それぞれの描画の逸脱率の違いについて報告した．
12.ポスター発表 「円描画における微細運動の分析(2)」	共	2017年9月	日本心理学学会第81回大会論文集，pp.834.（久留米大学）	松村憲一，*三好智子*，小笠原一生，長岡雅美 微細運動の定量的な指標として，円描画の利用可能性を目的とし，タブレット端末を用いて円描画課題を実施し，利き手非利き手による幼児の円描画の特徴を検討した．そして，円の回転方向と描画の開始位置，利き手非利き手による円の逸脱数の違いについて報告した．
13.ポスター発表 「Characteristic differences of a ball's direction when batting」	単	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology,p. 1114.（Yokohama）	*Satoko Miyoshi* 野球場面において，打者が遊撃手に向かって左右に打ち分ける打撃動作の3次元データを基に，主成分分析を用いて左右の打撃動作の特徴モデルを抽出した実験を行った．そして，3つの打撃動作モデルが抽出され，モデル別に左右方向の打球の違いについて報告した．
14.ポスター発表 「捕球場面における手がかりとなる情報－打球方向の違いによる打撃動作の解析－」	単	2015年12月	日本レジャー・レクリエーション学会第45回学会大会論文集，pp.118.（武庫川女子大学）	*三好智子* ポスター発表9の同様の実験場面で，遊撃手から見た打球方向の違いによる打撃動作を３次元動作解析によって分析した．そして，打球方向別の打撃動作を時点ごと（つま先がついた時点，踏み込んだ時点，インパクトの時点）に分け，打撃動作の違いを報告した．
15.ポスター発表 「打球方向の違いによる打撃動作の特徴」	共	2011年9月	日本心理学学会第75回大会論文集，pp.1272.（日本大学）	*三好智子*，森周司 野球の守備場面において，打撃方向を予測する際に打者の打撃動作にどのような特性があるかを３次元動作解析によって分析し，一連の打撃動作の特徴を報告した．
16.ポスター発表 「事前	共	2010年9月	日本心理学学会第	*三好智子*，森周司

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
視覚情報の利用が打球の方向予測に及ぼす影響 －熟練者と非熟練者の比較実験による検討－」			74回大会論文集，pp.761.（大阪大学）	学位論文のもととなった内容のポスター発表．野球の遊撃手が， 捕球の際に事前視覚情報を用いて打球方向を予測することを明らかにするために，熟練者と非熟練者の反応の違いを反応時間課題と時間的遮蔽法を用いた実験を報告した．
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.豊中市におけるマルチスポーツ体験教室の実践	共	2024年6月～現在	豊中市委託研究	研究分担者（研究代表者：長岡雅美）マルチスポーツ体験教室のプログラム開発と実践を行い、スポーツに対する意識の変化等を検証するために支給された。
2.豊中市におけるマルチスポーツ体験教室の実践	共	2023年7月 2024年3月	豊中市委託研究	研究分担者（研究代表者：長岡雅美）マルチスポーツ体験教室のプログラム開発と実践を行い、スポーツに対する意識の変化等を検証するために支給された。
3.豊中市における子どもの運動プログラムの実践	共	2022年6月～ 2023年3月	豊中市委託研究	研究分担者（研究代表者：長岡雅美）運動プログラムの開発,実践,効果測定を行い、体力の向上や運動に対する意識の変化等を検証するために支給された。
4.幼児期から児童期におけるコオーディネーション能力の発達	共	2020年～	科学研究費補助金基盤研究（C）	研究分担者（研究代表者：長岡雅美）
5.2019年度若手・女性研究者奨励金（若手研究者）	単	2019年4月	日本私立学校振興・共済事業団	若手・女性研究者奨励金は、私立大学、短期大学、高等専門学校が取り組む多様で特色ある研究について、次世代の担い手となる若手研究者や女性研究者の育成を目的としおり、若手研究者奨励金は、若手研究者の研究意欲の向上を図り、若手研究者の活躍促進に寄与することで、研究者の人材育成を図ることを目的とした研究助成金に採択された。「描画動作における認知的方略と定量的評価法に関する研究」に関して支給された。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2021年3月～現在	日本幼児体育学会
2.2019年7月～現在	日本幼小児健康教育学会
3.2018年2月～現在	日本DCD学会会員
4.2015年10月～現在	日本レクリエーション学会員
5.2010年4月～現在	日本心理学会会員